

各施設の状況

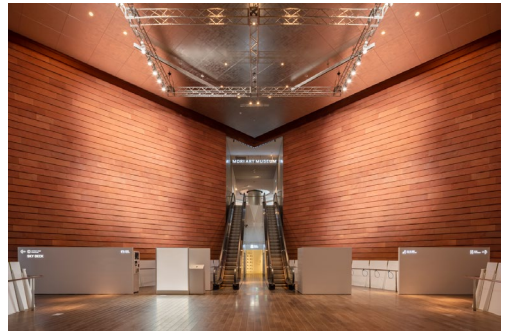
森美術館

文化都心・六本木ヒルズの象徴である森美術館は、「国際性」と「現代性」を追求しながら、複雑かつ多様な世界との出会いの場となることをミッションとし、20年間で約60本の企画展を開催。総入館者数は累計1,880万人にのぼり、現在ではアジアを代表する現代美術館の一つに成長しました。

近年では、パンデミック以降の新しい時代をいかに生きるのか、心身ともに健康である「ウェルビーイング」とは何かを現代アートに込められた多様な視点を通して紐解く「地球がまわる音を聴く：パンデミック以降のウェルビーイング」(2022年)や、世界各地で挑戦を続ける70代以上の女性アーティスト16名に着目した「アナザーエナジー展：挑戦しつづけるカー世界の女性アーティスト16人」(2021～2022年)、日本という枠を越えて広く国際的に活躍し、世界的に高い評価を得るアーティスト6名を紹介する「STARS展：現代美術のスターたち—日本から世界へ」(2020～2021年)など、話題性の高い展覧会を開催しています。

また、2021年にはオンラインチケット販売やQRコード認証に対応した新しいチケットシステムを導入。ミュージアムショップも増床し、旗艦店となる「森美術館 ショップ」(六本木ヒルズ ウェストウォーク3階)をオープンしました。

加えて、現代アートをとおして学びの場を提供する「ラーニング」では、未就学児からシニア世代まで様々な観客を対象にプログラムを展開。また、美術館が街の中へ飛び出し、コミュニティとつながる「まちと美術館のプログラム」など、美術館と観客の新しいあり方を拓くさまざまな取り組みに挑戦しています。



六本木ヒルズ展望台 東京シティビュー／スカイデッキ

東京シティビューは森タワー52階に、スカイデッキは屋上に位置する展望台で、東京タワー、東京スカイツリーなど、東京のランドマークはもちろん、天気の良い時は富士山までも見ることができます。トリップアドバイザーで上位に選出されるなど、東京には欠かせないトラベルデスティネーションとして国内外から多くのお客様を迎えています。とりわけスカイデッキは、夕陽やお月見の名所としても脚光を浴びています。

東京シティビューは高さ約11メートルの吹き抜けのガラス張りの屋内展望台。天候に関わらずダイナミックな東京の街の景色を見渡せます。また、随時、眺望と融合した展覧会やイベントを開催しています。屋上スカイデッキは海拔270メートル、360度遮るものがなくぐらりと見晴らせるオープンエア空間で、景色だけでなく、空、風、星などの自然を体感できます。さらに、毎月第4金曜日を「六本木天文クラブの日」として天体望遠鏡で星空を観望する「星空観望会」を実施しています。

眺望をお楽しみいただくことはもちろん、ライトアップや音楽、ヨガイベントなど多様な取り組みを通じて、景色だけでなく面白さを持つ、何度も足を運びたいスポットとなることを目指しています。





アカデミーヒルズ

アカデミーヒルズは、1988年に「アーク都市塾」がアークヒルズに誕生して以来、一貫して知的活動の場と学びの機会を提供しています。組織や会社を離れた“自律的に自立する個人の支援”をミッションに「会員制ライブラリー事業」を展開し、人や情報とつながるインタラクティブなセミナーや交流プログラムを実施しています。また、国際会議やビジネスイベントに対応できるフォーラム事業を運営しています。

会員制ライブラリー事業「六本木ヒルズライブラリー」:「人」と「本」がつながり、「知識」や「情報」を交換する会員制ライブラリーは、朝7時～24時まで、席数320、約1万2,000冊の旬な書籍を館内に配架、セミナーや交流会、サークル活動などもあり、志を同じくするメンバー2,200名が在籍。ビジター参加もできるセミナーは、多様なテーマで「創造」「交流」「発信」する新しい学びのスタイルを目指して企画。「個」の時代に必要な自分の軸、価値基準を創り、自分らしく生きる「六本木アートカレッジ」など多数開催しています。

フォーラム事業:東京を代表する情報発信(MICE)の拠点として、グローバル企業のフォーラムや、国内外の政府機関による国際会議など、20年間で合計約2万5,000件近くの多様なイベントを開催、延べ約510万人の方が来館しました。加えて、東京都の「ビジネスイベント先進エリア」の指定を受けており、地域で「Destination Marketing Organization (DMO)六本木」を立上げ、積極的にMICEの誘致、受入も行っています。



六本木ヒルズクラブ

六本木ヒルズクラブは、人的交流の拠点として、様々な分野で活躍されるインフルエンサーの方々が集い、食を通じて対話を愉しみ、新しい文化を発信する拠点となることを目指す会員制クラブです。

6つのレストランでは多彩な料理を楽しむことができ、プライベートやビジネスの利用に最適なバラエティ豊かなプライベートルームも充実しています。また、多数のゲストをお迎えできるバンケットルームも完備。カジュアルなパーティーからフォーマルなお食事会まで、幅広いシーンに対応が可能です。

会員制だからこそできる、ゲスト一人ひとりの希望に沿ったきめ細かなサービスを提供しています。



グランド ハイアット 東京

グランド ハイアット 東京は、ダイナミックでスタイリッシュな空間と充実の施設が特徴のライフスタイルディスティネーションホテルとして、個性あふれる直営の10のレストラン・バー、宴会場施設、客室が究極のくつろぎと感動を創出してきました。

ライフスタイルを提案するホテルとして、華やかな経済を経験したバブル世代をターゲットとしたホテル業界初のディスコイベントや、南フランス・プロヴァンス地方のリゾート地で誕生したと言われる“オールホワイト”がドレスコードのセレブリティイベントを開催するなど、恵まれた環境や最新の設備を活かしたさまざまなコンテンツで多くのお客様を魅了しています。これからも「期待以上の体験、想像以上の感動」をお届けするマーケットリーダーとして、グランド ハイアット 東京ならではのスタイルで、新たな価値を創造していきます。

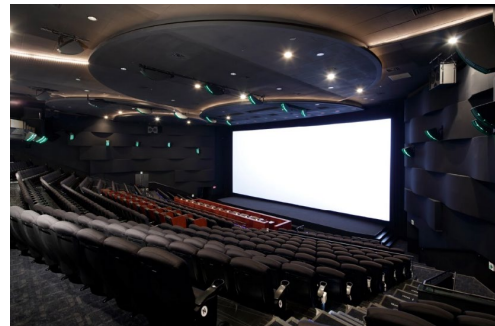




TOHOシネマズ 六本木ヒルズ

TOHOシネマズ 六本木ヒルズは、開業から現在に至るまで 20 年に渡り、数々のジャパンプレミアや舞台挨拶を開催し、年間 200 近くのイベント会場となっています。

2015 年には大幅なリニューアルをし、メインスクリーンであるスクリーン 7 番に、独自規格の巨大スクリーン「TCX®」や、最高級の音響を体験できる「ドルビーアトモス」、ゆったりとした空間で映画をご鑑賞いただける「プレミアム ラグジュアリーシート®」を導入。多くのお客様からご好評をいただいています。また、アトラクション型 4D シアター「MX4DTM」や全スクリーンに導入されている「プレミアム ボックスシート®」で、今まで以上に上質な、ワンランク上の映画体験を提供しています。



商業

六本木ヒルズの商業エリアは、それまでショッピングの拠点がなかった六本木に、ここにしかないオリジナリティやクオリティを追求した「ONE&ONLY」をコンセプトに、飲食や物販・サービス店舗約 200 店で構成される新たな一大商業拠点を生み出しました。以来、概ね 5 年ごとに時代に合わせた大規模なリニューアルを行い、港区を中心とした都心居住者に向けて新たな価値を提案し続けています。

六本木けやき坂通りやウェストウォークには、2016 年冬以降、ロレックス、グッチ、サンローラン、カルティエ、クリスチャンルブタン、パレンシアガなど、ラグジュアリーブランドをさらに集積。また、2018 年にエストネーション、ユナイテッドアローズをはじめとするセレクトショップの顔ぶれにビームスの旗艦店が加わる等、お客様のニーズに合わせた店舗構成や洗練された商品ラインナップを通して商業施設として成長する事で、他にはない魅力の醸成、鮮度の維持と顧客満足度の向上に努めてきました。さらに、2017 年にスタートしたヒルズカードで年間税別 300 万円以上お買い上げの顧客向けサービス「4 スタープログラム」や 2021 年春より運用しているヒルズアプリ・ヒルズネットワークによって顧客とのリレーションが強化され、売上の下支えに繋がっています。



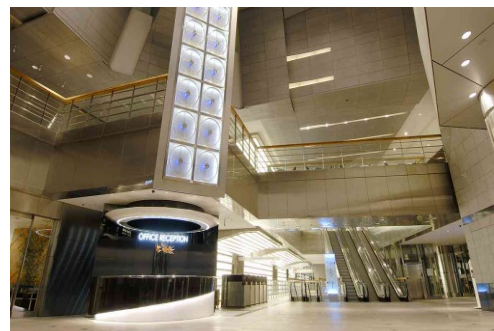
このような取り組みを積み重ねた結果、2022 年度は開業以来最高の売上を記録。六本木ヒルズならではの高付加価値なサービスを提供し、東京の商業施設をリードし続けています。

オフィス

六本木ヒルズには、2003 年のオープン当時都心部で最大規模であった約 1,300 坪の巨大プレートが特徴の森タワーをはじめ、クロスポイント、ゲートタワー、けやき坂テラス、ノースタワーの 5 棟のオフィスビルがあります。最先端スペックを兼ね備えた大規模から小規模まで多様なニーズや働き方に応えるオフィス環境を提供しています。

また、高度な BCP 性能や環境性能、展示会や国際会議から社内会議までが開催可能な大小様々なカンファレンス施設、国内外からの VIP をお迎えする格式高いホテル、出張者が短期滞在できる快適なサービスアパートメント、森ビル運営施設の約 350 店舗で利用可能な様々なベネフィットメニュー、セミナーからコミュニティイベントまで入居企業の従業員成長を支援する様々なサービスなど、オフィスを超えて街全体で入居企業のビジネスをあらゆる面でサポートしてきました。

このような取り組みが評価され、20 年を経た今も、世界をリードするグローバルカンパニーや、成長著しいスタートアップ企業など、常に次の時代を創る企業や人材が集まり、オフィスは常にほぼ満室の高稼働が続き、現在も約 120 社が入居。多彩な業種と国籍のワーカー約 1 万 5,000 人が就業しています。





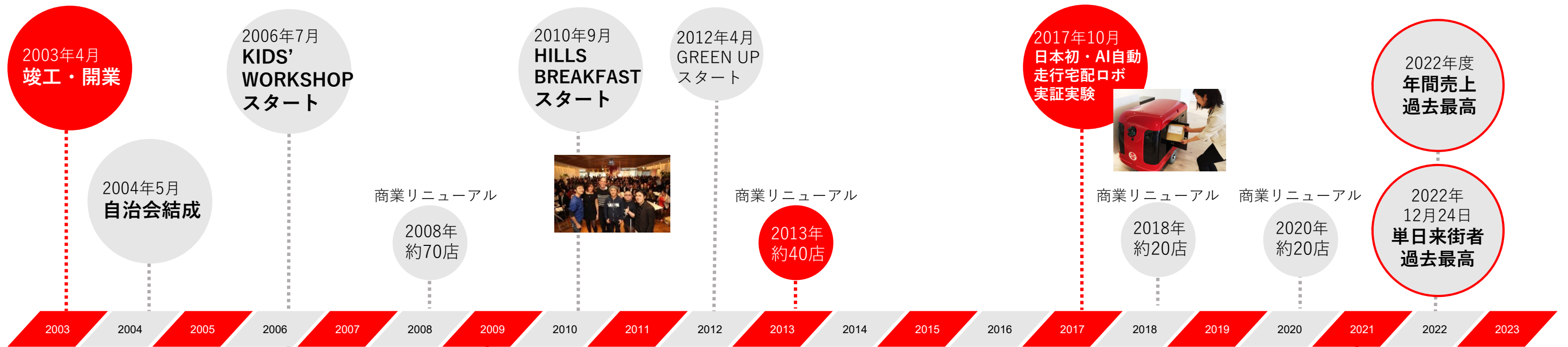
六本木ヒルズレジデンス(住宅)

六本木ヒルズレジデンスは、森ビルがつくる住宅のフラッグシップとして誕生しました。オンとオフが限りなくボーダレスになる時代には、日々の交流や遊びの中からビジネスのヒントが生まれ、暮らしの場を離れずとも仕事や知的交流ができるようになる。私たちが目指すのは、そんな「空間」と「時間」、「環境」を提供することです。

六本木ヒルズレジデンスは、美術館、ホテル、映画館、スパなど、ユニークで上質な「ヒルズとしての住環境」を備え、ひとりひとりのライフスタイルに向き合ったサービスやホスピタリティなどが開業以来、高い評価を得てきました。合計約 800 戸の住宅の内、賃貸住宅約 450 戸の稼働率は約 9 割。このうち約 3 割は、海外からの居住者で占められています。



六本木ヒルズ～20年の歩み



開業まで 17年間の歩み

- 1986年11月 再開発誘導地区指定
- 1990年12月 六本木六丁目地区 再開発準備組合発足
- 1995年4月 都市計画決定
- 1998年9月 六本木六丁目地区 市街地再開発組合設立認可
- 2000年2月 権利変換計画認可
- 2000年4月 着工

2005年10月 長周期地震動感知システム本格稼働

2006年9月 六本木アートトライアングル結成

2007年 国立新美術館 サントリー美術館 開館

2009年3月 六本木アートナイト初開催

2011年7月 余剰電力供給開始

2011年 ピラミデなど 周辺にギャラリー7軒 オープン

2013年8月 被災度推測システム「e-Daps」運用開始

2012年3月 港区「災害発生時における 帰宅困難者の受け入れ等に関する協力協定」締結

2013年7月 CASBEE最高ランク取得

2016年 Complex665 オープン

逃げ出す街から、 逃げ込める街へ

2019年8月 国内初 再エネ100% 供給開始

2019年11月 協生農法実証実験開始

2021年11月 「ボトル to ボトル」 リサイクル実証実験開始

2021年3月 ヒルズアプリ 運用開始

六本木はアジアを代表するアートの拠点に



再開発で安全・安心な街に
再開発前は、15m以上の高低差で分断されたエリアに、木造低層住宅が密集。また、狭い一方通行の道路で、消防車が入れず防災上の課題を抱えた地域でした。



街を育むコミュニティ
再開発を進めた約400件の地権者の皆さんを中心に「六本木ヒルズ自治会」を結成。以降、盆踊りから震災訓練まで、都心にありながら地域に根差した、様々なコミュニティ活動を続けてきました。



広がるコミュニティ活動
20年で様々な活動が生まれました。月1回の清掃活動「六本木クリーンアップ」は、今までに170回開催し、2万人以上が参加。2010年にはじまった朝のトークイベント「HILLS BREAKFAST」には650名以上が登壇しています。



街を舞台に学びを提供
子どもの学びの場も数多く提供してきました。夏休みのKIDS' WORKSHOPには、2011年からテナント企業も参加し、六本木ヒルズでしか経験できないプログラムを展開。今までに4万人以上が参加しました。



東京のアートの中心に
文化都心として、森美術館を運営するほか、2009年からは六本木アートナイトを東京都などと共催。周辺には美術館やギャラリーが集積し、六本木はアジアを代表するアートの拠点になりました。



屋上緑化を超えて
地上45mのけやき坂コンプレックスの屋上庭園は、それ自身が地震の揺れを制御するダンパーになっている他、水田では地域の皆さんと稲作が行われ、コミュニティ活動の場としても活用されています。



イベントは東京の風物詩に
四季折々のイベントを通年で開催し、街に賑わいを創出しています。クリスマス時期には約700万人が訪れ、白と青のLEDで彩られたけやき坂のイルミネーションは東京の冬の風物詩として定着しました。